

1 調査の概要

(1) 実施日 令和 8 年 4 月 23 日(木)

(2) 対象学年 中学 3 年生

(3) 調査内容

①教科に関する調査 国語、数学、英語

②質問調査 学習や生活に関する調査

(4) 目的

①学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

②そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査結果

(1) 教科に関する調査

教科	全国との比較	判断に用いた主な指標
国語	同程度	平均正答数
数学	同程度	平均正答数
英語	同程度	平均 IRT スコア*等

*IRT スコアは、問題の難易度などを考慮して算出された学力の推定値。

国語・数学は平均正答数、英語は平均 IRT スコア等を全国と比較し、いずれの教科も全国と大きな差が見られなかったこと（平均正答数は全国との差が±1 題の範囲内にある）から、本校生徒の学力状況は全国と比較し「同程度」にあると判断している。

(2) 質問調査

「先生は自分のよいところを認めてくれている」「困りごとや不安があるときに学校の大人に相談できる」「学校に行くのは楽しい」「友達と協力して課題の解決に取り組んでいる」という項目について肯定的な回答をした生徒の割合が、全国と比べて高い結果であった。一方、「家庭で授業の復習をすること」や、「学校の授業時間以外の学習時間」といった項目については、全国と比べて低い結果であった。

3 調査結果を受けて

(1) 国語

話の内容を捉えることや、文章の構成、語句の意味を文脈に即して理解する問題では、正答率が高かった。しかし、複数の意見や情報を整理し、指定された条件に沿って自分の考えとその理由を書く問題では、正答率が低く、情報を関連付けて根拠を明確に表現することに課題が見られた。

(2) 数学

数と式や関数の領域では、全国より正答率が高かった。また、知識・技能を問う問題や、選択式・短答式の問題でも全国を上回っており、学習した知識や技能を用いて答えを求める問題には成果が見られた。また、図形の領域や説明を求める記述式の問題については、全国と同程度であったが、本校の他領域と比較すると正答率が低く課題が見られた。

(3) 英語

知識を実際のコミュニケーションの場面で活用する技能を問う問題は、全国と同程度であった。また、日常的な話題について話を聞き、その概要を捉える問題は、全国を上回った。

「書くこと」では、社会的な話題に関する短い文章を読み、要点を捉えた上で、自分の考えとその

理由を書く問題は全国を上回った。一方、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題には、全国を下回るものが見られた。

(4) 質問調査

質問調査では、「教師や学校の大人との関わり」や「学校生活の楽しさ」に関する項目で肯定的な回答が多く、多くの生徒が安心感や楽しさをもって学校生活を送っていると考えられる。また、「友達の考えを大切にしながら協力して課題に取り組んでいる」と回答した生徒も多く、こうした協働的な学びが学校での学習を支える土台となっている。

しかし、授業で学んだ内容を家庭で復習することや、学校外で学習時間を確保することには課題がある結果であった。

4 学力向上の取組について

(1) 学びのサイクルを重視した授業改善

本校では、今年度、全教科で「めあての提示」「実行（アウトプット）」「調整」「振り返り」を授業改善の共通の視点としている。教科や単元の特性に応じて重点的に取り組む場面を設定し、生徒が「何ができるようになるか」を見通した上で、自分の考えを表現し、他者の考えや間違い、考え方の違いを手がかりに、自分の考え方や学習方法を見直す授業づくりを進めている。

また、「振り返り」を次の学習につなげるとともに、生徒が間違いを恐れず、自分の考えを表現したり、互いの考えを取り入れたりできる授業づくりに取り組んでいく。

(2) 一人ひとりの学びを支える取組

家庭学習の習慣化を図るため、授業内容と関連付けた生徒の学習状況に応じた課題を提示するとともに、朝テストを実施したり、必要に応じて AI ドリル等も活用することで、家庭等においても継続して学習に取り組めるよう支援する。

また、一人ひとりの課題や取組状況を把握した上で、教員が学習の進め方を生徒とともに確認し、1対1で学習を支援する伴走型支援を進める。

さらに、現在校内に開設している「自主学習ブース」について、定期考査前に限らず平日の放課後等にも活用を促し、生徒が自主的に学習に取り組める機会の充実を図る。

5 次年度に向けて

質問調査から、授業で学んだ内容を家庭で復習することや、学校外で学習時間を確保することに弱さが見られた。その克服を図るためにも、今後、生徒が生活の中に学習時間を位置付け、授業の振り返りを基に、自分に必要な学習を考え、実行し、見直すことができる取組を進めていきたい。

また、家庭での学習につながるよう、学校内でも自主的に学習できるように「自主学習ブース」の活用を一層促進する。定期考査前だけでなく、平日の放課後にも利用できることを周知し、生徒が継続して学習に取り組める機会を充実させ、学校全体で学力向上の気運を高めていきたい。